



# 大争闘の終結

全宇宙に神の正義が擁護<sup>ようご</sup>

大争闘シリーズ No.14



大争闘シリーズ No.14

# 大争闘の終結

全宇宙に神の正義が擁護ようごされる

(キリストとサタンの大争闘 42 章)

# 目次

## Contents

新エルサレムの降下と悪人たちの復活	1
サタンとその配下の総動員	3
キリストの戴冠式 <sup>たいかんしき</sup>	7
恐るべきパノラマ	11
救われた者と滅びる者	14
暴露されたサタンの正体	18
大争闘の最終的結論	21
刑罰と滅びの時	25
ただ一つのしるし	30
永遠の家郷	33
新天新地	37
神は愛である	41

## はじめに

今日、世界はこぞって新世界秩序（New World Order）に向かって動いていることは確実である。一ドル紙幣に書いてあるばかりでなく、世界の最大勢力であるバチカン、アメリカの近年の大統領、その他いろいろな人々が口にするようになった。メディアも取り上げている。不吉な終末思想は我々に希望を与えない。一時神聖ローマ帝国のもとに世界政府の構築は成功するように見えるかもしれないが、それは崩壊する。一世紀以上前に書かれた聖書も、この本の著者、E.G. ホワイトも人間の手によってそのようなことを試みるが、昔のバベルの塔のように崩壊し、創造主なる神は「人手によらずに」、人間の方策力によらず、ご自分の愛と平和の王国を打ち立てることを預言している。

「人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みも

ない」「見よわたしはすべてのものを新しくする」という言葉が実現するのである。

全宇宙の知的存在が神の公平な裁きを見て後のことである。サタン自身さえそれを認めて滅んでいくのである。「神は愛である」という言葉は全宇宙にこだまする。

## 新エルサレムの降下と悪人たちの復活

千年期の終わりに、キリストは再び地上に帰って来られる。彼は贖われた大群衆を伴い、天使の一行を従えて来られる。彼は恐るべき威光をもってお下りになるとき、死んだ悪人たちに、最後の審判を受けるためによみがえるよう命じられる。彼らは海の砂のように、無数の大群となって現れる。しかし、第一の復活の時によみがえらせられた人たちと比較して、何という相違であろうか。義人たちは朽ちない若さと美しさを着せられていた。ところが、この悪人たちは死と病気の跡を帯びている。

この大群衆のすべての眼が、神のみ子の栄光に注がれる。悪人たちは一斉に、「主のみ名によって来られるお方に祝福あれ」と叫ぶ。もちろん、それはイエスに対する愛のために言っているのではない。彼らは真理の力に迫られて、この言葉をしぶしぶ口から出すのである。悪人

たちは、墓に下った時と同じように、キリストに対する憎悪と反逆精神をもってよみがえる。彼らは、その過去の生涯の欠点を除くために、もう一度恩恵期間が与えられるのではない。もしそれが与えられたとしても、彼らが変わることはないであろう。罪の中で過ごした一生は、彼らの心をかたくなにした。万が一、第二の恩恵期間を与えられたとしても、第一の時と同じく神のご要求を回避し、神に対する反逆を引き起こすだけであろう。

キリストはオリブ山にお下りになる。この場所は、彼が復活後昇天された所であり、天使たちが、主の再臨



の約束を告げた所であった。預言者はこう言っている。「あなたがたの神、主はこられる、も

ろもろの聖者と共にこられる。」「その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリブ山の上に立つ。そしてオリブ山は、非常に広い一つの谷によって、東から西に二つに裂け、」「主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる」（ゼカリヤ 14:5,4,9）。そして、目もくらむばかりに光り輝く新エルサレムが天から下り、清められて受け入れ準備が整った場所に落ち着くと、キリストは、ご自分の民や天使たちと共に、その聖なる都にお入りになる。

## サタンとその配下の総動員

今やサタンは、主権をふたたび獲得しようとして最後の大争闘の準備をする。長い間猛威を振るうことも、欺瞞の手を伸ばすこともできず、サタンは意気消沈のありさまであった。しかし、悪人たちの復活を見、しかもその無数の大軍が

自分の味方と知った今、彼は希望を取り戻し、敢然と戦いぬくことを決意する。彼は滅びる者たちすべてを自分の旗下に集めた。そして彼らを利用し、自分の目的を果たそうとする。悪人たちはサタンの虜である。キリストを拒絶した彼らは、反逆の指導者の支配を受け入れたのである。彼らは簡単にサタンのそそのかしを受け入れ、その命令に従う。この場合にもサタンは昔からのずるい手段を使って、自分の正体を明かさない。彼は、自分がこの世界の正当な王であるのに、無法にもその継承権を奪われたのだと主張する。サタンは、その欺いた部下に対して、まるで自分が救い主であるかのように主張し、彼らを墓からよみがえらせたのは自分の力であって、今の残酷な暴政から彼らを救い出そうとしているのだと言う。キリストのお姿が見えなくなると、サタンはこの主張を裏付けるように不思議な業を行う。彼は、弱いものを強くし、すべての者に彼自身の精神と力を吹き込む。サタンは、彼らを指揮して聖徒たちの陣営を襲

い、神の都を奪  
い取ろうと提案  
する。彼は、悪  
魔らしい大満悦  
をもって死から  
よみがえらされ  
た無数の大群衆



を指さし、その指導者として、聖都を破壊し王座と王国を奪還することが十分できると宣言する。

この大群の中には、ノアの洪水前に生存していた長寿の種族がいる。彼らは大きな体と偉大な知能を持ち、墮落天使の支配に身を委ねて、あらゆる技量と知識とを自分自身を高めるためにだけ用いてきた人々である。彼らは、その傑出した能力を偶像視されながら、残酷で邪悪な発明を通して、地上を汚し神のみかたちを汚した。そのために神によって地上から一掃された人々である。そこには、諸国を征服した王侯や

將軍たち、かつて戦場で敗れたことのない戦士たち、近づいただけで諸国を戦慄<sup>せんりつ</sup>させた高慢で野心にあふれた戦士たちもいる。死によっても彼らは変化を経験しなかった。彼らが墓から出て来たとき、彼らの思考回路はその停止したところから動き始める。彼らは、倒れた時に彼らを支配していたのと同じ征服欲によって行動する。

サタンは配下の悪天使たちと相談し、さらに王侯、征服者、有力者たちと相談する。彼らは自分たちの味方の数と勢力をながめて、これに比べれば聖都の中の軍勢は少数だから簡単に勝利することができると断言する。彼らは、新エルサレムの栄光と富を手に入れようと計画を立てる。そして、すぐに戦闘の準備を始める。熟練した技術者たちは、兵器の製作にとりかかり、作戦にたけた武將は、好戦的な群衆を指揮していくつもの軍団に分ける。

ついに進軍命令が出され、無数の大軍は行進

を開始する。これは地上のどんな征服者によっても召集されたことのない大軍であり、この地上で戦争が始まって以来、各時代の軍勢を合わせてもなお比較することのできないほどの大軍である。サタンは自ら陣頭に立って軍を率い、悪天使たちもこれに続き、この最後の争闘に出陣した。さらに王侯や將軍たちもサタンに続き、おびただしい数の大軍団となったがその各軍団にはそれぞれ指揮官がいる。密集した部隊は、軍隊のように秩序整然として、破壊によってでこぼこになった地上を聖都に向かって行進する。キリストのご命令により新エルサレムの門は閉じられ、サタンの大軍は都を包囲し、戦闘の準備に入る。

## キリストのたいかんしき戴冠式

今、キリストは、再び敵から見えるところに姿を現される。聖都の上はるか高く、光り輝く

純金の基の上にみ座がある。そのみ座の上に神のみ子が座し、そのまわりを神のみ国の民が囲んでいる。この時のキリストの力と威光は、言葉では描写することができない。永遠にいます父なる神の栄光が、み子を覆っている。そしてその臨在の輝きは聖都に満ち、城外にあふれ、さらにまた全地にあふれている。

み座のいちばん近くには、かつてサタンの業に熱心であったが、火の中から燃えさしのように取り出されて、熱心な信仰をもって救い主に従ってきた者たちがいる。その次には、虚偽と不信仰のただ中であってキリスト者の品性を完成した者たち、それから、キリスト教界が神の律法は無効であると宣言したときにも律法を尊重し続けた者、さらに各時代にわたり、信仰のために殉教した無数の人々がいる。そしてその向こうには、「あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手

に持って、御座と小羊との前に」立っている（黙示録 7:9）。彼らの



彼らの戦闘は終わり、彼らの勝利は獲得された。彼らは走るべき行程を走り、褒美をもらった。彼らの手にあるしゅろの葉は勝利の象徴であり、白い衣は、今は彼らのものとなっているキリストの汚れなき義を示している。贖われた者たちは、「救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる」と賛美の歌声を上げるが、それは大空に反響をくりかえす（黙示録 7:10）。天使とセラピムとは声を合わせて賛美する。

贖われた者たちは、サタンの力と悪意を見たとき、キリストの力以外のどんなものも彼らを勝利者にすることはできなかったことを、これ

までになかったほど知った。光り輝く大群衆の中には、誰一人として自分自身の力と善行で勝利したかのように、救いを自分の手柄にする者はいない。自分のしたことや苦しんだことについては一言もふれず、どの歌の主旨もどの賛美の基調も、「救いはわれらの神と、小羊のものである」というのである。

天と地の全住民が集合している前で、神のみ子の最終的な戴冠式が行われる。そして今や、王の王なるイエスは、最高の威厳と力とをもって、神の政府に反逆した者に宣告を下し、神の律法を犯し、その民を迫害した事実に対してさばきを執行される。このことについて、預言者はこう言っている。「また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう

一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた」(黙示録 20:11,12)。

## 恐るべきパノラマ

こうして数々の記録の書が開かれ、イエスの目は悪人の上に注がれる。彼らは、これまでに犯した罪の一つ一つを意識する。彼らは、自分たちがどこで純潔と聖潔の道から外れたか、高慢と反逆のために、どんなに神から離れてその律法を犯したか、ということに悟る。罪にふけることにより誘惑をますます魅力的にしたこと、祝福を悪用したこと、神の使者たちを侮辱したこと、警告を拒み、神の恩恵を頑固に拒絶し悔い改めなかったこと—これらすべてのことが、ちょうど火の文字で書かれているかのように現される。

み座の上に  
十字架が現され  
る。そしてちょ  
うどパノラマの  
光景のように、  
アダムの誘惑と  
墮落の場面、救



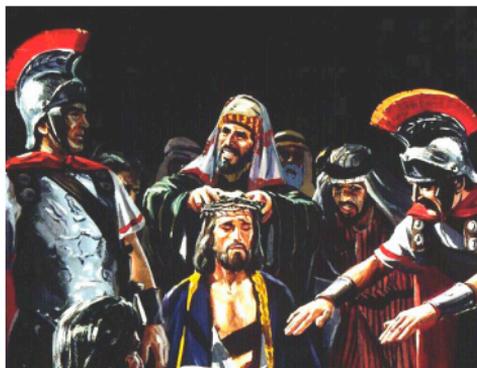
いの大いなる計画における一步一步が、次々に示される。救い主がいやしい身分にお生まれになったこと、質素で従順なその幼年時代、ヨルダン川でのバプテスマ、断食と荒野の試練、天の最も尊い祝福を人々に示されたその公生涯、愛と恵みの行為に満ちた日々、寂しい山の中でしっとの夜通しの祈り、その恵みの行為に対して嫉妬と憎悪と悪意とによる陰謀をもって報いられたこと、全世界の罪の重荷に押しつぶされそうなゲッセマネにおける恐るべき神秘的な苦悩、残忍な暴徒の手に売り渡されたこと、あの恐怖の夜の恐ろしい事件、すなわちいちばん愛された弟子たちにも捨てられ、無抵抗の囚人として、

荒々しくエルサレムの通りを引き立てられて  
いったこと、神のみ子がアンナスの前で手柄顔  
に見世物にされ、大祭司の邸宅とピラトの法廷  
で審問を受け、卑怯<sup>ひきょう</sup>で残酷なヘロデの前で嘲笑  
され、侮辱され、拷問を受け、ついには死罪の  
宣告を受けられたこと…こうしたすべてのこと  
が、ありありと描き出される。

そして今、ざわめく群衆の前に最後の光景が  
現される。すなわち、苦難を、耐え忍ばれる主が、  
カルバリーへの道をたどって行かれる姿、天の  
大君が十字架につけられ、高慢な祭司たちや嘲  
笑している暴徒たちが、息もたえだえの神のみ  
子の苦悩をあざけている光景、超自然的な暗  
黒、救世主が息を引き取られた瞬間に地が揺れ  
動き、岩が裂け、墓が開いたことなど、そうし  
た最後の光景が示されるのである。

## 救われた者と滅びる者

恐るべき光景が、起こったとおりにそのまま映し出される。サタンと悪天使および悪人たちは、自分たちのしわざであるその光景から顔をそむける力はない。一人一人が、自分の演じた役割を思い出す。イスラエルの王イエスを殺そうとして、ベツレヘムの罪なき幼児たちを殺させたヘロデ、バプテスマのヨハネの血について責めを負うべき卑劣なヘロデヤ、優柔不断で無節操なピラト、嘲弄ちょうろうしている兵士たち、「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」と叫んだ、祭司たちや役人たちや狂気のようになった群衆—こうした人々はみな、自分たちの罪がどんなに凶悪なものであったかを見



る。彼らは、太陽よりも強い光を放つ主のみ顔の威光から、隠れようとするが無駄である。一方贖われた者たちは、その冠を救い主の足元に投げ、「主はわれらのために死なれた」と叫ぶ。

贖われた群衆の中には、勇ましいパウロや熱心なペテロ、愛し愛されたヨハネなどキリストの使徒たちや、真実な心の持ち主であったその兄弟たちがおり、そして大勢の殉教者たちがいる。一方城壁の外には、あらゆる汚れたもの憎むべきものと共に、かつて彼らを迫害し、投獄し、殺した者たちがいる。かつて聖徒たちを責め苦しめて、彼らの極度の苦悶くもんを見て悪魔のような喜びを味わった残忍非道なローマの皇帝ネロもいて、自分がかつて迫害した人々が高められ、歡喜するありさまを見る。またネロの母もそこにいて、自分自身の行為の結果を見、自分の悪い品性がそのまま息子に遺伝したこと、また自分の感化と手本とによって激情がますますひどくなり、世を戦慄させるような犯罪の実を

結んだことを知る。

そこにはまた、キリストの大使であると公言しながら、神の民の良心を支配しようとして、拷問台や土牢や火刑柱を使用した法王教の司祭や高僧たちがいる。神よりも自分を尊くし、僭越せんえつにもいと高きお方の律法を変更しようとした、高慢な法王もいる。これら偽りの教会指導者たちは、神の前で申し開きをしなければならないが、できることならそれを免れたいと願う。彼らは全知全能の神が、ご自分の律法を非常に大事になさるお方であり、罰すべき者を決してお許しにならない方であることを悟るが、もう手遅れである。今彼らは、キリストがご自分の民と心をつつになさったことを知り、また、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」との主ご自身のみ言葉の力を身に感じるのである（マタイ 25:40）。

すべての悪人は、天の政府に対する大反逆と

いう罪名のもとに、神の法廷に<sup>しょうかん</sup>召喚される。彼らを弁護する者はなく、また申し開きをすることもできない。こうして永遠の死の宣告が彼らに下される。

罪の価は高尚な自立や永遠の生命ではなく、隷属、衰退、死であることが、今すべての者に明らかになる。悪人たちは、自分たちの反逆の生涯によって何を失ったかを見せられる。彼らは、永遠の重い栄光をあふれるばかりに提供されたときにはそれを拒否したが、今はそれが何と望ましいものに見えることだろう。この時、滅びゆく者たちは「これらはみなわたしのものになったかもしれないのに、わたしは自分でそれを遠ざけてしまった。ああ、とんでもないものに有頂天になっていたものだ。わたしは平和と幸福と名誉を、不幸と不名誉と絶望とにとりかえてしまった」と叫ぶ。どの人も、自分が天から除外されることが正しいことを認める。彼らは自らの生活によって「我らは、この人 [イ

エス] が王になるのを望んでいない」と宣言したのであった。

魅せられたかのように、悪人たちは神のみ子の戴冠式を眺めた。そして、彼らは神のみ子がそのみ手に、自分たちが今まで拒否し違反してきた神の律法の板を持っておられるのを見る。また、救われた者たちが一斉に驚嘆と喜びと賛美の声を上げるのを見る。そしてその歌声の波が城外の群衆にまで押し寄せると、すべての者が異口同音に「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものがあります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります」と絶叫し、ひれ伏して生命の君を拝するのである（黙示録 15:3）。

## 暴露されたサタンの正体

サタンは、キリストの栄光と威厳とを見て

麻痺まひしたようになる。かつて守護のケルブであった彼は、自分がどこから落ちたかを思い出す。光輝くセラフ、「黎明れいめいの子、明けの明星」が、何と変わり果て、何と墮落したことであろう。かつては尊敬されていた会議から、彼は永遠に除外されてしまったのである。彼は、今は別の天使が神の栄光を覆って天父のそばに立っているのを見る。彼は、気品と威厳とに満ちた容姿の一人の天使がキリストの頭上に王冠をのせたのを見た。彼はこの天使の高い地位に自分が立つはずであったことを知る。

サタンが罪を抱かず純潔であったころのふるさと、神に対してつぶやき、キリストをねたむようになるまでは彼のものであった平和と満足が、サタンの記憶によみがえる。非難、反逆、天使たちの同情と支持を得るための欺瞞、神がゆるしをお与えになることができた時に、もとの状態に立ち返る努力をせず、心をかたくなにしたこと、すべてがまざまざと脳裏によみ

がえってくる。彼は、人類の中でした働きとその結果（人と人との間の敵意、生命の恐るべき破滅、諸王国の興亡、王位の転覆、暴動と闘争と革命の連続）を思い起こす。そして彼は、自分が絶えずキリストのみ業に反対し、人類をますます堕落させようと努めてきたことを思い出す。彼は、自分のどんな悪らつな計略も、イエスに信頼を置く者たちを滅ぼす力がなかったことを知る。サタンは、その労苦の実である自分の王国を見るとき、ただ失敗と破滅だけを見る。彼は群衆に、神の都はやすやすと占領できると信じさせてきたが、しかし彼はそれが偽りであることを知っている。これまで何度も大争闘の進展と共に失敗し屈服させられてきた彼は、永遠なる神の力と威厳とを、十分に知っているのである。

この大反逆者のねらいは常に、自分を正当化して、反逆の責任が神の統治にあることを証明することであった。この目的のために、サタン

はその絶大な知力を注いできた。彼は慎重に、組織的に行動し、長い間にわたる大争闘について、巧みに自分の言い訳を説明し、多くの人々に信じさせることに成功してきた。幾千年にわたり、この大反逆者は、偽りを真理に見せかけてきた。しかし、その反逆がついに撃退され、サタンの経歴と品性が明るみに出される時が、今来た。大欺瞞者サタンが、キリストを王座から退け、神の民を滅ぼし、神の都を占領しようと最後の努力をすることにおいて、彼の正体が完全に暴露された。彼と協力してきた者たちも、彼の働きが全く失敗したことを知る。キリストに従う者たちと忠実な天使たちは、神の統治に対するサタンの陰謀の全容を見る。サタンは全宇宙の憎悪の的となる。

## 大争闘の最終的結論

サタンは、自ら進んで反逆したことによっ

て、自分が天に入るにふさわしくない者となったことを知る。彼は神と戦うために、自分の能力を訓練してきた。彼にとっては、天の純潔と平和と調和とはこの上ない苦痛となるであろう。神のあわれみと正義に対するサタンの非難は、今こそ沈黙させられた。彼が主に浴びせようと努めてきた非難は、すべて彼自身に向けられる。そして今、サタンはひれ伏して、自分の上に下った判決が正しいことを認める。

「主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あなたの正しいさばきが、あらわれるに至ったからであります」(黙示録 15:4)。長年にわたって争われてきた真理と誤謬ごびゅうのすべての問題が、今明らかにされた。反逆の結果、つまり神の律法を廃することの結果が、すべての知的被造物の目の前で明らかになった。神の政府による統治と、全く反する主

義主張のサタンによる支配の結果が、全宇宙の前に公開された。サタン自身の行為が、彼を罪に定めたのである。神の知恵と正義といつくしみとが、完全に擁護される。大争闘における神の処置は、すべてご自分の民の永遠の幸福のために、そして神の創造されたすべての世界の幸福のために行われたものであることが明らかになる。「主よ、あなたのすべてのみわざはあなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめまつるでしょう」(詩篇 145:10)。そして罪の歴史は、神が創造されたすべての者の幸福が神の律法の存在と結びついていることを、永遠にわたって証する。大争闘の一切の事実が明らかになると、全宇宙は、忠誠な者も反逆した者も、異口同音に「万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります」と言明する。

人類のために天父とみ子によって払われた大犠牲が、全宇宙の前に明らかにされた。今こそキリストがその正当な地位を占め、すべての

支配、権威、また唱えられるすべての名にまさって崇められる時が来た。キリストが恥をもちとわなないで十字架に耐えられたのは、ご自分の前に置かれた喜びのため、すなわち、多くの子らを栄えに入らせるためであった。その悲痛と恥辱は想像以上に大きかったが、喜びと栄光においてはさらにこれにまさるものがあった。キリストは、贖われた者たちが彼ご自身かたちのみ像に回復され、そのおのおのの心に神の完全なお姿を宿し、その顔に王なる神の輝きを反映するのを見られる。主は、ご自分の魂の苦しみの結果が、彼らのうちに現れているのをごらんになって満足される。そして主は、義人の群れにも悪人の群れにも聞こえる声で、「見よ、わたしの血をもって贖った者を。わたしが彼らのために苦難を受け、彼ら



のために死んだのは、永遠に彼らをわたしの前におらせるためである」と宣言される。そして、み座の周囲の白い衣をまとった者たちが「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」と讃美する声上がる（黙示録 5:12）。

## 刑罰と滅びの時

サタンは、神の正義を認めて、キリストの主権の前にひれ伏さざるを得なくなるが、その性質は決して変化しない。反逆的精神が再び奔流ほんりゅうのようにあふれ出て、憤りの念に燃やされ、彼は、大争闘に負けまいと決心する。こうして、天の王に対する最後の決死的争闘が開始される。彼は部下たちの真ん中に割り込んで行き、自分自身の怒りを彼らに吹き込み、一大決戦に奮起させようとする。しかし、サタンが反逆におびき入れた無数の群衆の中で、サタンの主権

を承認する者は一人もない。サタンの権力は終わりを告げたのである。悪人たちは、サタンが神に対して奮起した同一の憎悪の念に満たされているが、しかし自分たちの立場が絶望的であることと、到底主に勝つことはできないことを知っている。彼らの怒りは、サタンとその欺瞞の手先であった者たちに向けられる。彼らは、悪鬼のように怒って彼らに飛びかかる。

主はこう言われる。「あなたは自分を神のように賢いと思っているゆえ、見よ、わたしは、もろもろの国民の最も恐れている異邦人をあなたに攻めこさせる。彼らはつるぎを抜いて、あなたが知恵をもって得た美しいものに向かい、あなたの輝きを汚し、あなたを穴に投げ入れる。」「このゆえに、おおうことをなすところのケルブよ、われ……火の石の間より汝を滅ぼし去るべし……われ汝を地になげうち汝を王たちの前に置いてみもの観物とならしむべし……汝を見る者の目の前にて汝を地に灰となさん……汝は人

のおそれとなり、限りなくうせはてん」(エゼキエル 28:6-8,16-19 文語訳)。

「すべて戦場で、歩兵のはいたくつと、血にまみれた衣とは、火の燃えくさとなって焼かれる。」「主はすべての国にむかって怒り、そのすべての軍勢にむかって憤り、彼らをことごとく滅ぼし、彼らをわたして、ほふらせられた。」「主は悪しき者の上に炭火と硫黄とを降らせられる。燃える風は彼らとその杯にうくべきものである」(イザヤ 9:5;34:2、詩篇 11:6)。火が天の神のみもとから下る。地はくずれる。地の深い所に隠されていた武器が引き出される。焼き尽くす炎が、地のすべての裂け目から吹き出す。あらゆる岩石は火となる。「炉のように燃える日」が来たのである。「天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされる」(マラキ 4:1、Ⅱペテロ 3:10)。地の表面は、ちょうど溶けたかたまり、巨大な沸騰する火の池のように見える。それは、神を敬わ

ない者たちの刑罰と滅びの時である。「主はあだをかえす日を持ち、シオンの訴えのために報いられる年をもたれる」（イザヤ 34:8）。

悪人はこの地上で報いを受ける。「万軍の主は言われる、見よ、炉のように燃える日が来る。……その来る日は、彼らを焼き尽して、根も枝も残さない」（マラキ 4:1）。ある者は一瞬の間に滅ぼされるが、他の者は多くの日の間苦しむ。みな「彼らの行いにしたがって」罰せられる。義人の罪はすでにサタンに移されたので、サタンは自分自身の反逆の罪だけでなく、神の民に犯させたすべての罪のために苦しむ。彼の受ける刑罰は、彼が陥れた者たちの刑罰よりはるかに重い。サタンの欺瞞によって墮落した者たちがすべて滅びた後も、なお彼は生きながらえて



苦しみを受ける。このように清めの火によって、悪人たちはその根も枝もついに滅ぼされた。サタンは根であり、これに従った者たちが枝である。律法の命じる刑罰はすべて下り、正義の要求は果たされた。天と地はこれを認め、主の義を宣言する。

サタンの破壊の働きは、永久に終わりを告げた。彼は、六千年間にわたり思いのままに行動し、災いをもって地を満たし、全宇宙を悲しませてきた。被造物全体が共にうめき、共に産みの苦しみをしてきた。今や神の被造物は、ことごとくサタンの存在と誘惑から永久に解放された。「全地はやすみを得、穏やかになり、ことごとく声をあげて歌う」(イザヤ 14:7)。賛美と勝利の歌が、忠誠な全宇宙からわき起こる。「大群衆の声、多くの水の音、また激しい雷鳴のようなもの」が「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる」と言うのが聞こえる(黙示録 19:6)。

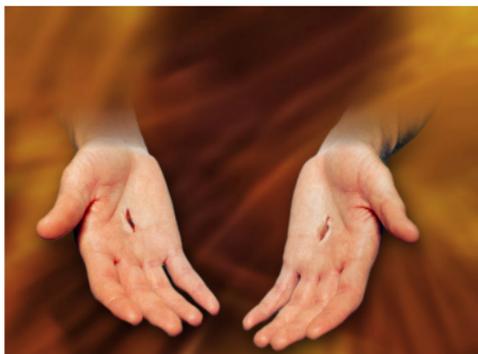
地は滅亡の火で包まれたが、義人は聖都の中に安全にいた。第一の復活にあずかった者たちには、第二の死は何の力もない。神は悪人たちにとっては焼き尽くす火であるが、神の民にとっては日であり、盾である（黙示録 20:6、詩篇 84:11 参照）。

「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった」（黙示録 21:1）。悪人たちを焼き尽くす火が地を清める。あらゆる災いの跡は一掃される。贖われた者たちに罪の恐るべき結果をいつまでも示す、いわゆる永遠の地獄などはないのである。

## ただ一つのしるし

しかし、唯一記念として残るものがある。我々の救い主は、永遠に十字架の傷跡をとど

められるのである。主の傷ついたみ頭かしらに、裂かれた脇腹に、その手足に、罪がなした残酷な仕業の跡が見られ



る。預言者ハバククは栄光の主を仰ぎ見て「その光は彼の手〔脇腹—欽定訳〕からほとぼしる。かしこにその力を隠す」と言っている（ハバクク 3:4）。人類を神と和解させるために、真紅の血潮がほとぼしりてた脇腹、そこにこそ救い主の栄光があり、そこに主の力が隠れている。主は贖いの犠牲によって、「救いを施す力ある」お方となられたので、神のあわれみをあなどった者たちに対しては、強い態度でさばきを執行されたのである。救い主の屈辱のしるしこそは、救い主の最高の栄誉である。カルバリーの傷跡は、永遠にわたり主への賛美を示し、主の力を宣言する。

「羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰ってくる」（ミカ 4:8）。あの炎の剣が、エデンからアダムとエバを追放して以来、聖徒たちが待ちこがれていた「神につける者が全くあがなわれ」る時が来た（エペソ 1:14）。最初人類に与えられた地、しかしサタンの手に奪われ、長い間強力な敵に占領されてきた地は、贖罪の計画によって再び人の手に戻された。罪によって失われた一切のものは回復された。「天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる」（イザヤ 45:18）。地上が贖われた者たちの永遠の住まいとなる時、地を創造された時の神の最初の目的が達成される。「正しい者は国を継ぎ、とこしえにその中に住むことができる」（詩篇 37:29）。



## 永遠の家郷

未来の嗣業をあまりにも物質的なものに思わせはしないかとの恐れから、それを我々の住まいとして見るようにと教えられている真理そのものを、霊的なものにしてしまう人が多い。しかし、キリストは弟子たちに、わたしはあなたがたのために父の家に住まいを準備しに行くとはっきり言われた。聖書の教えを信じる者は、天の住まいについて全く無知ではない。しかもなお、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のであ

る（I コリント 2:9）。人間の言葉では、義人の受ける報賞を十分に描写することはできない。見る者だけが分かるであろう。限りある人知では、神のパラダイスの栄光を理解することができない。

聖書の中では、救われた者の嗣業が「ふるさと」と呼ばれている（ヘブル 11:14-16 参照）。そこでは天の大牧者イエスが、ご自分の群れを生ける水の源に連れて行ってくださる。いのちの木は月ごとにその実を結び、その葉は万民のために用いられる。流れても永遠に尽きない川は水晶のように透き通り、そのそばにある木は、主に贖われた者たちのために備えられた道の上に影を投げている。広々とした平野の果ては美しい丘となって盛り上がり、神の山々が高くそびえ立っている。この平和な平原に、また生ける流れのほとりに、長い年月の間旅人であり寄留者であった神の民が、その住まいを見いだすのである。

「わが民は平和の家におり、安らかなすみかにおり、静かな休み所におる。」「暴虐は、もはやあなたの地



に聞かれず、荒廃と滅亡は、もはやあなたの境のうちに聞かれず、あなたはその城壁を『救』ととなえ、その門を『誉』ととなえる。」「彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。彼らが建てる所に、ほかの人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。……わが選んだ者は、その手のわざをながく楽しむからである」（イザヤ 32:18;60:18;65:21,22）。

そこにおいて、「荒野と、かわいた地とは楽しみ、さばくは喜びて花咲き、」「いとすぎは、いばらに代って生え、ミルトスの木は、おどろに代って生える」（イザヤ 35:1;55:13）。「お

おかみは小羊と  
共にやどり、ひよ  
うは子やぎと共に  
伏し、……小さい  
わらべに導かれ、  
「彼らはわが聖な



る山のどこにおいても、そこなうことなく、  
やぶることがない」と神は言われる（イザヤ  
11:6,9）。

天の雰囲気の中では、苦痛や涙は存在する  
ことができない。もはや葬りはなく、悲しみも嘆  
きもないのである。「もはや、死もなく、悲し  
みも、叫びも、痛みもない。先のものが、すで  
に過ぎ去ったからである」（黙示録 21:4）。「そ  
こに住む者のうちには、『わたしは病気だ』と  
言う者はなく、そこに住む民はその罪がゆるさ  
れる」（イザヤ 33:24）。

## 新天新地

そこには栄化された新しい地上の首都、新エルサレムがある。それは、「主の手にある美しい冠」「あなたの神の手にある王の冠」である（イザヤ 62:3）。「その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであった。」「諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光栄をそこに携えて来る」（黙示録 21:11,24）。「わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ」と主は言われる（イザヤ 65:19）。「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいま」す（黙示録 21:3）。

神の都には「夜は、もはやない。」誰一人として休みを求める者はなく、またその必要もない。神のみ心を行い、み名を賛美するのに何も疲労を感じない。常に朝のすがすがしさを感じ、それは決して尽きることがない。「あかりも太

陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照らされるからである（黙示録 22:5）。太陽光線の代わ



りに、目にまぶしくない光が与えられる。しかしその明るさは、今の真昼の輝きよりもはるかにまさっている。神と小羊の栄光は、都を衰えることのない光で照らし、贖われた者たちは太陽のない、しかもとこしえの昼の光の中を歩むのである。

「わたしは、この都の中には聖所を見なかった。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである」（黙示録 21:22）。神の民は、父なる神とみ子と自由に交わる特権がある。「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている」（I コリント 13:12）。現在我々

は、自然界の動きにおいて、また人類に対する神の取り扱いにおいて反映される神のみ姿を、あたかも鏡に映して見るように見ている。しかしその時には、両者を隔てる覆いなくして、顔と顔とを合わせて神を見る。我々は神のみ前に立ち、目のあたりにみ顔の輝きを見るのである。そこで贖われた者たちは「完全に知られているように、完全に知る」のである。神ご自身が魂に植え付けられた愛と同情とは、そこで最も真実な、最も美しいものとして発揮される。聖者たちとのきよい交わり、聖天使たち及びその衣を小羊の血で洗って白くした各時代の忠実な者たちとの、むつまじい社会生活、「天と地の全家族」を一つに結びつける聖なるきずな—こうしたものが、贖われた者たちの幸福となる（エペソ 3:15 欽定訳）。

そこでは、不死の特権にあずかった者たちが、創造力の驚異、贖罪の愛の奥義を、永遠に尽きない喜びをもって研究する。もはや人を神

から離れさせるような、狡猾で残忍な敵はいない。すべての才能が発達し、すべての能力が増大する。知識を獲得するのに頭脳を疲れさせたり、精神を消耗させたりするようなことはない。そこでは、どんなに大きな企画も実行され、どんなに遠大な抱負も達成され、どんな大望も実現される。そしてそれでもなお、越えるべき新しい高いところ、感嘆すべき新しい驚異、理解すべき新しい真理、頭と心と体の能力を呼び起こす新たな対象が現れてくる。

宇宙のすべての宝は、贖われた者の研究資料として開放される。死ぬべき人間という拘束を受けなくて、彼らはその翼をのぼし、はるかに遠い他世界—かつては人間界の悲惨を見て悲しみ嘆き、一人の魂が救われたとの知らせに歓喜の歌を響かせた他世界—へ、疲れも覚えず飛行する。言葉では言い尽くすことのできない喜びをもって、地上の子らは、墮落しなかった他世界の住民たちの知恵と喜びとにあずかること

ができる。世々にわたって神のみ手の業を熟視して得られた知識と悟りの宝に、彼らは共にあずかる。くもりのない目をもって、彼らは創造の栄光を見つめる。すなわち、もろもろの太陽や星や天体が、おのおのその定められた軌道を通して、神のみ座の周囲を運行しているのを見る。最も小さなものから最も大きなものに至るまで、すべてのものの上に、創造主のみ名が書きしるされ、すべてのものの中に神の力の富が示されている。

## 神は愛である

永遠の歳月が経過するにつれ、神とキリストについてのますます豊かますます輝かしい啓示がもたらされる。知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々が神について学ば学ぶほど、ますます神のご品性に感嘆するようになる。イエスが彼らの前に、贖罪の

豊かな富と、  
サタンとの大  
争闘における  
驚くべき功績  
をお示しにな  
ると、贖われ  
た者たちの心



はいっそう熱烈な献身の念に動かされ、いよいよ喜びに満たされて黄金の立琴を奏でる。そして、万の幾万倍、千の幾千倍の声の一つとなり、ついには驚くべき讚美の一大コーラスとなって盛り上がるのである。

「またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、『御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように』」（黙示録 5:13）。

ついに大争闘は終わった。もはや罪はなく罪

人もいない。全宇宙は清くなった。調和と喜びの唯一の脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。一切を創造されたお方から、生命いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。

もっと詳しく知りたい方のために、  
大争闘小冊子シリーズの完全版

## “キリストとサタンの大争闘”



E. G. ホワイト著

ポケット版 400円

各時代の人類歴史に展開されてきた善と悪、真理と誤謬の大争闘の真相と悪の勢力の陰謀と策略を明らかにし、それに勝利する方法、今起こっている諸事件と諸現象はどんな意味を持っているか、人類にどんなすばらしい未来が待っているか等々が解明されている必読の書！

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com

## 大争闘小冊子シリーズ

- No.1 罪惡の起源
- No.2 サタンと人類の戦い
- No.3 悪魔のわな
- No.4 人は死んだらどうなるか？
- No.5 心霊術の正体
- No.6 現代キリスト教会の危機
- No.7 ローマ法王教の狙い
- No.8 差し迫った戦い
- No.9 ただ一つの防壁—聖書
- No.10 世界への最後の警告
- No.11 大いなる悩みの時
- No.12 神の民の救出
- No.13 平和な千年期は来るか？
- No.14 大争闘の終結



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com